

第1部 沖縄観光の現状と課題

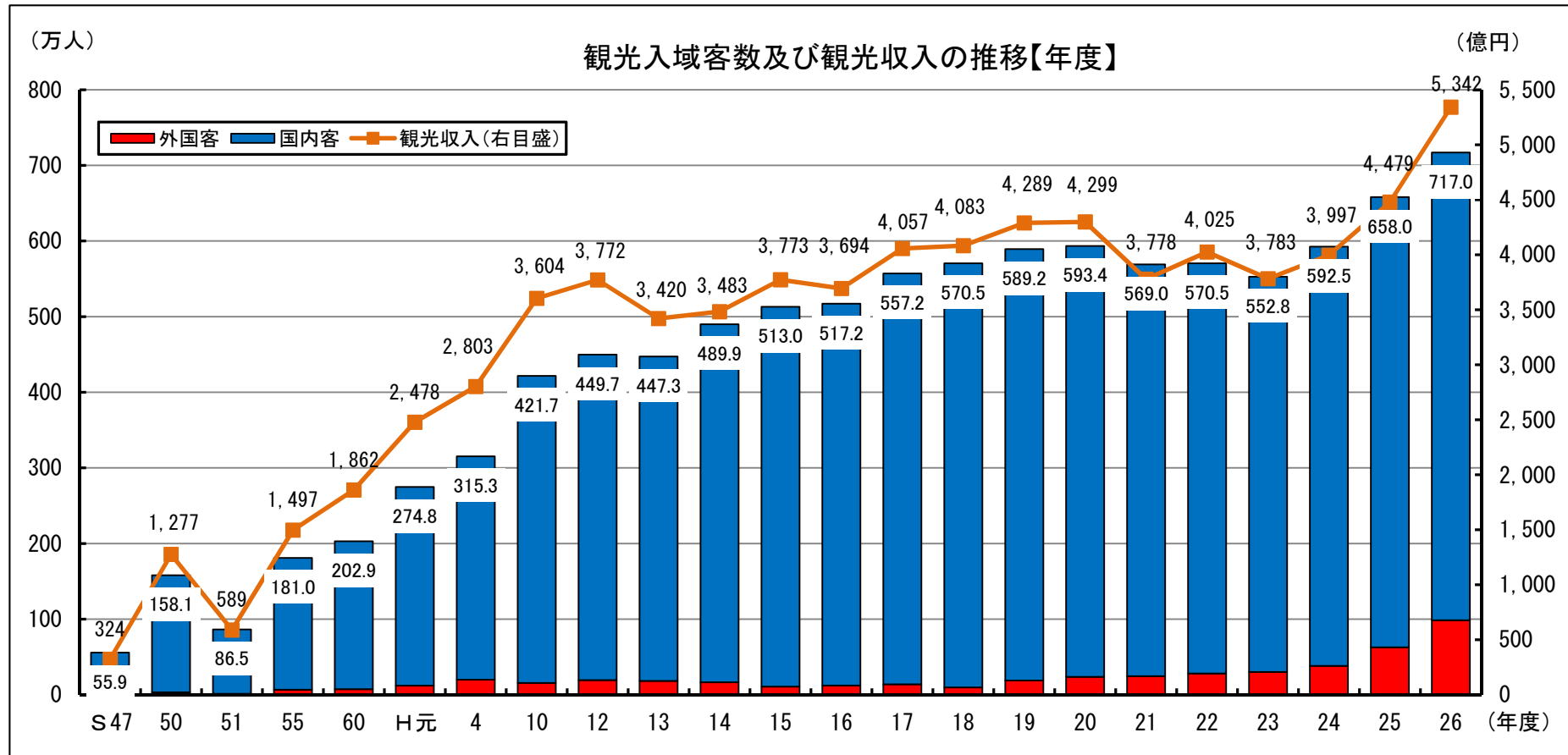
(1)沖縄観光のこれまでの推移

(入域観光客数)

・55万9千人(昭和47年度)→ 717万人(平成26年度 12. 8倍)

(観光収入)

・324億円(昭和47年度)→ 5, 342億円(平成26年度 16. 5倍)

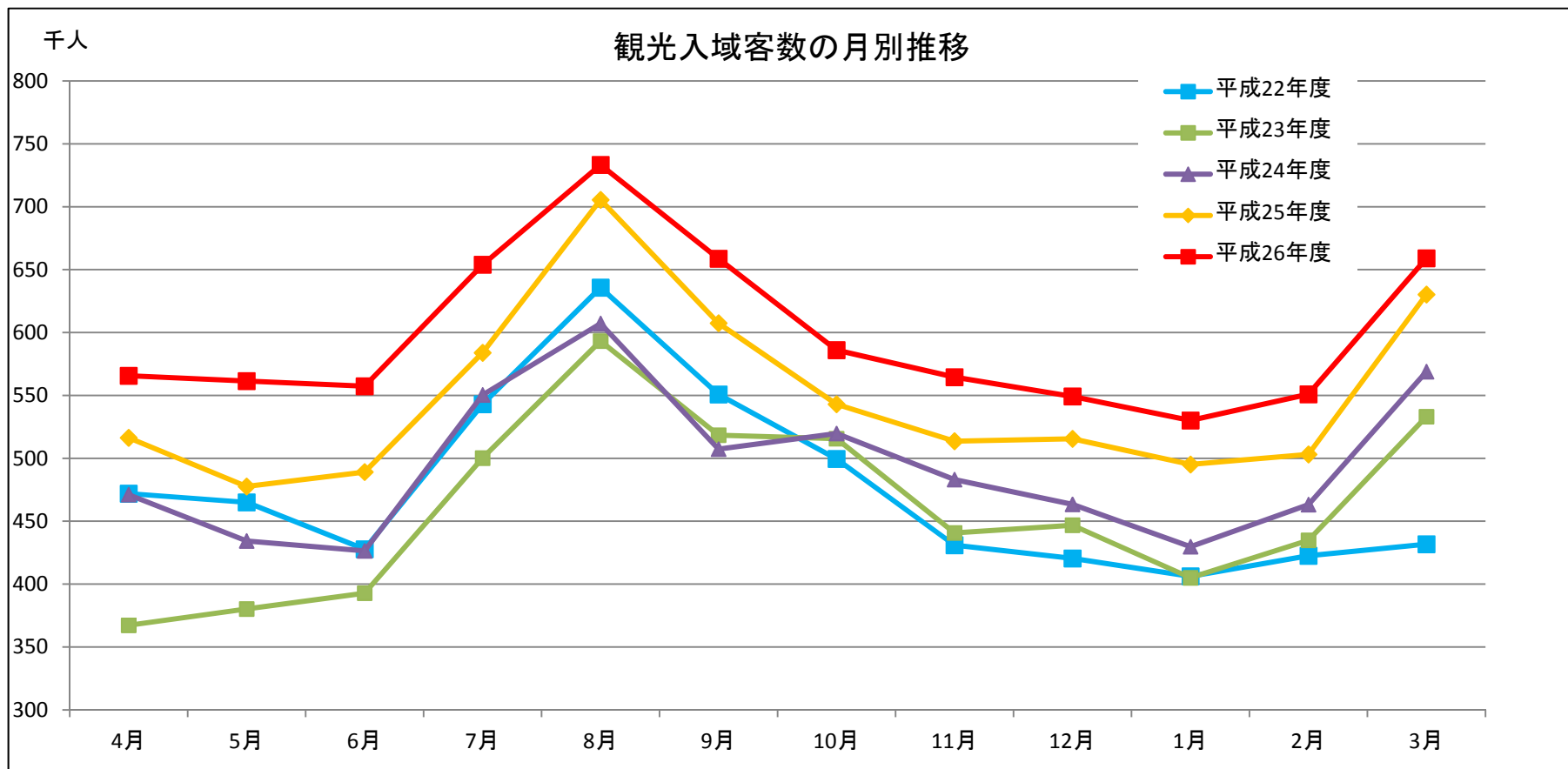


出所: 沖縄県「観光要覧」、「平成26年度沖縄県入域観光客統計概況」、
「平成26年度の観光収入について」

(2) 平成26年度 沖縄観光の動向①

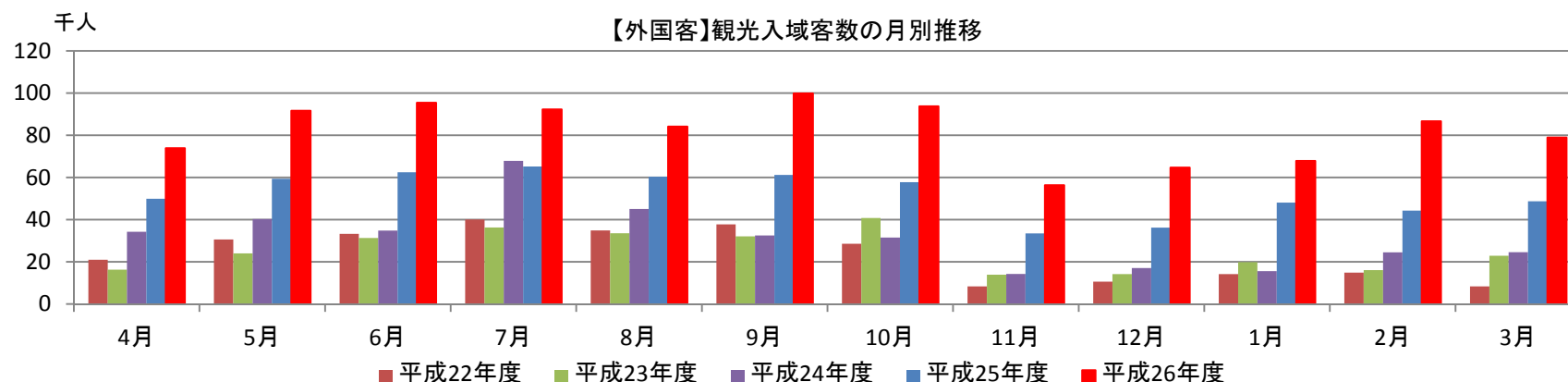
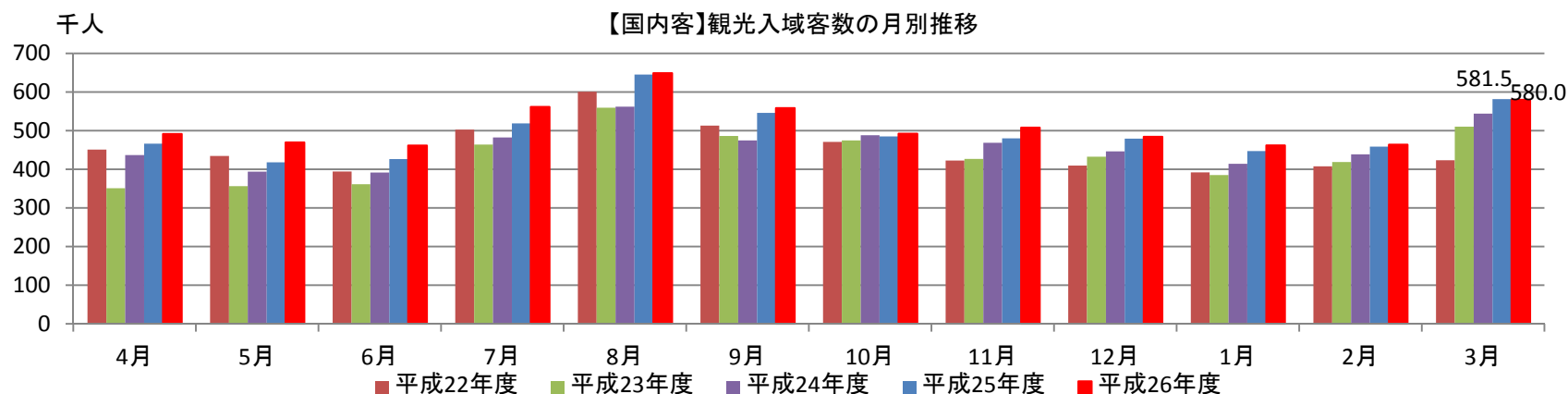
○平成26年度の観光入域客数の概況

- 平成26年度の入域観光客数は、716万9,900人で、対前年比58万9,600人増加、9.0%の増加となり、2年連続で過去最高を更新し、初の700万人台を記録した。
- 要因としては、「円安の継続に伴う国内及び訪日旅行の需要増」、「海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数増による外国人観光客の大幅な増加」に加え、「那覇空港の新国際線旅客ターミナルビル及び那覇港の旅客船ターミナルの供用開始」、「国内外における官民上げての継続したプロモーション活動」が上げられる。



(2)平成26年度 沖縄観光の動向②

- ・平成26年度の国内客は、618万3,900人で、対前年比23万800人増、3.9%の増加となり、過去最高となった。3月の減の要因は、スカイマークの減によるもの。
- ・平成26年度の外国客は、98万6,000人で、対前年比35万8,800人増、57.2%の増加となり、全ての月で前年同月より増加し、過去最高となった。



(2) 平成26年度 沖縄観光の動向③

○平成26年度の国籍別入域観光客数について

台湾

・台湾-那覇路線、高雄-那覇路線で新規就航・増便等があり、空路客を中心に増加。過去最高であった昨年を上回り、初の30万人台となった。

韓国

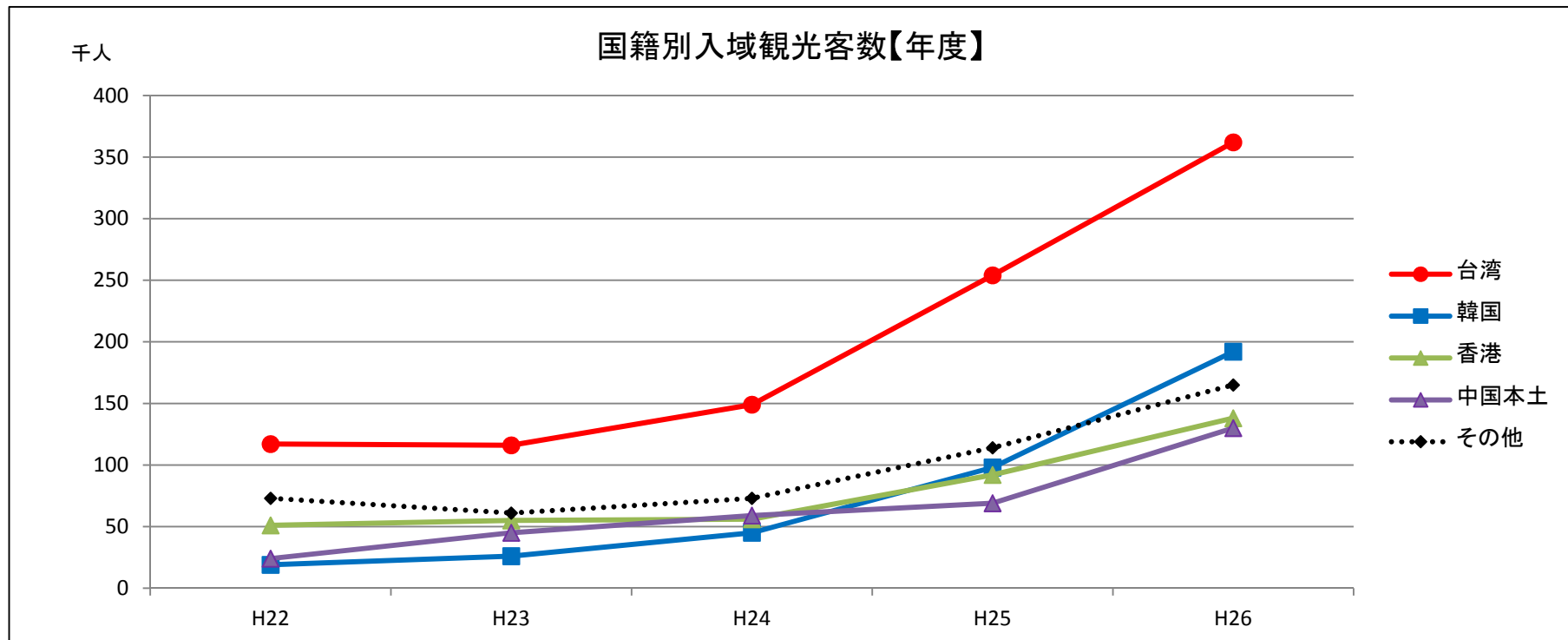
・年度後半において、アジアナ航空・ジンエアーの増便、韓国LCC2社の新規就航があり、ソウル-那覇路線が拡充、重点市場の中で最も高い増加率となった。

香港

・香港航空-那覇路線が増便したことや、ピーチアビエーションの香港-那覇路線の新規就航等により、空路客を中心に増加し、過去最高となった。

中国本土

・新規路線の就航や春節時期の大幅な入込みあり、過去最高となった。クルーズ船の寄港により、海路客も増加した。

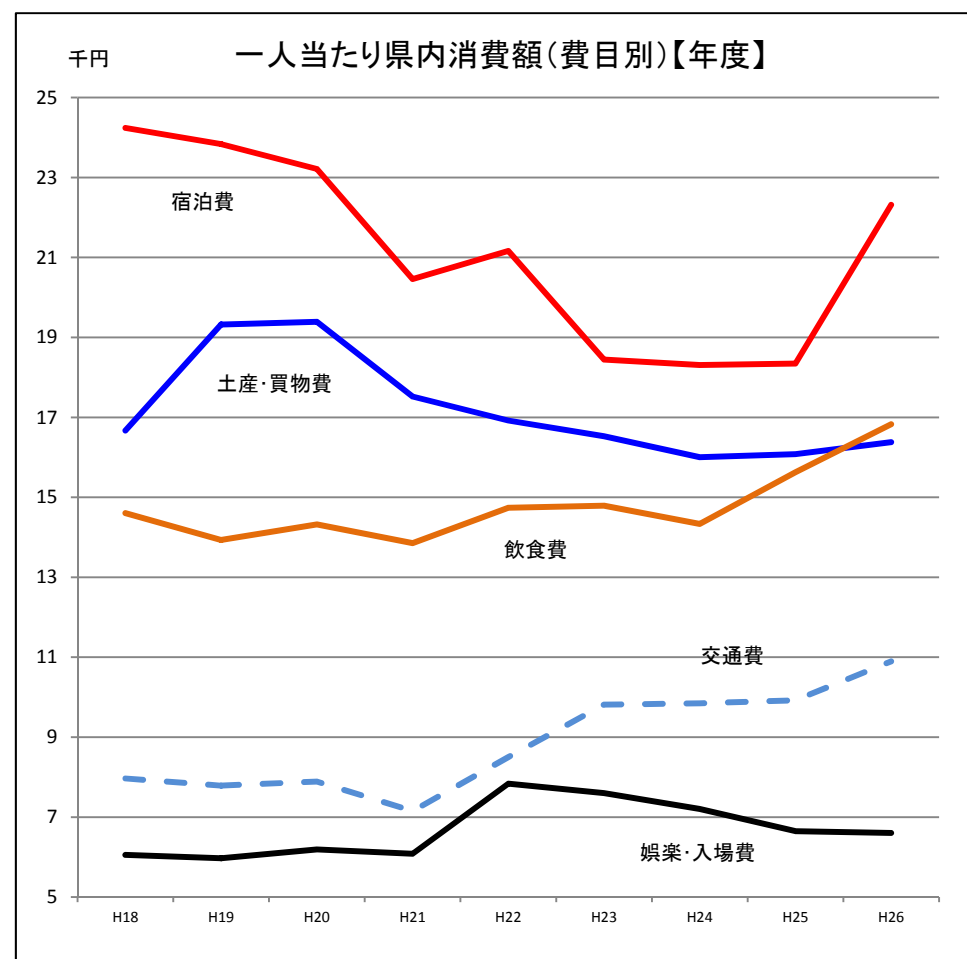
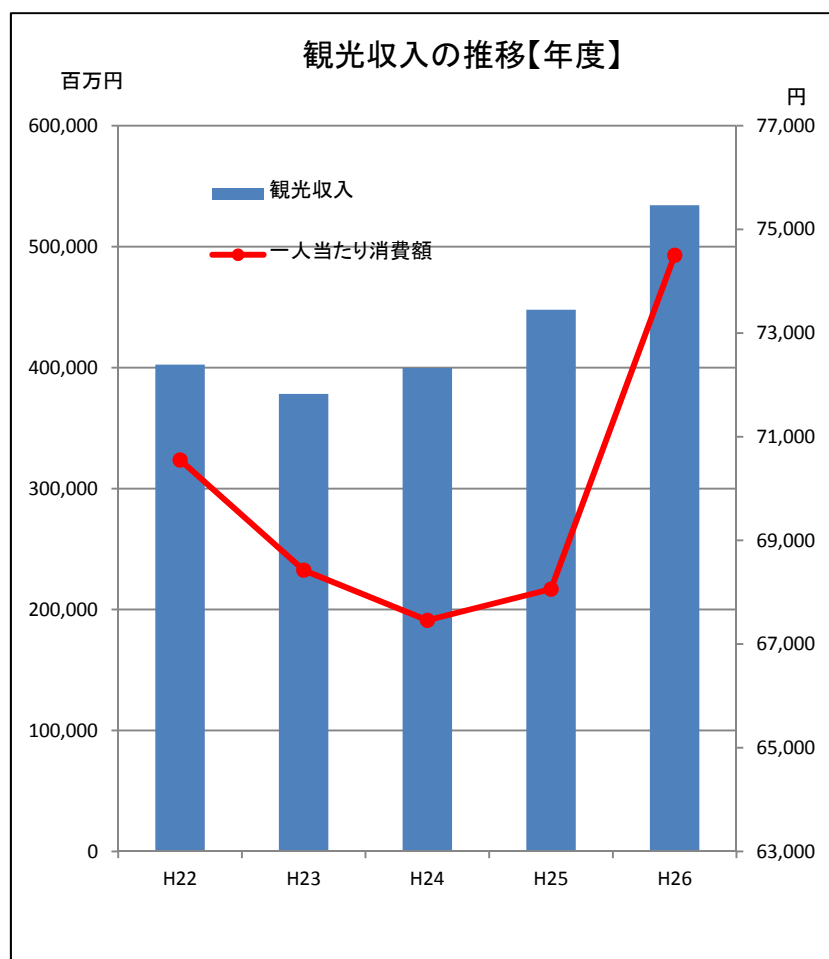


出所：沖縄県「観光要覧」、「平成26年度沖縄県入域観光客統計概況」

(2) 平成26年度 沖縄観光の動向④

○平成26年度観光収入

- ・平成26年度の観光収入は、観光客一人当たり県内消費額の増、入域観光客数の大幅増により、前年度比19.3%増の5,341億7,200万円となり、2年連続で過去最高を記録した。
- ・観光客一人当たり県内消費額は前年度比9.5%増の74,502円。
- ・消費額の増加要因としては、消費額の30%を占める「宿泊費」の21.6%増をはじめとして、「県内交通費」、「飲食費」等ほとんどの費目で前年度を上回ったことがあげられる。

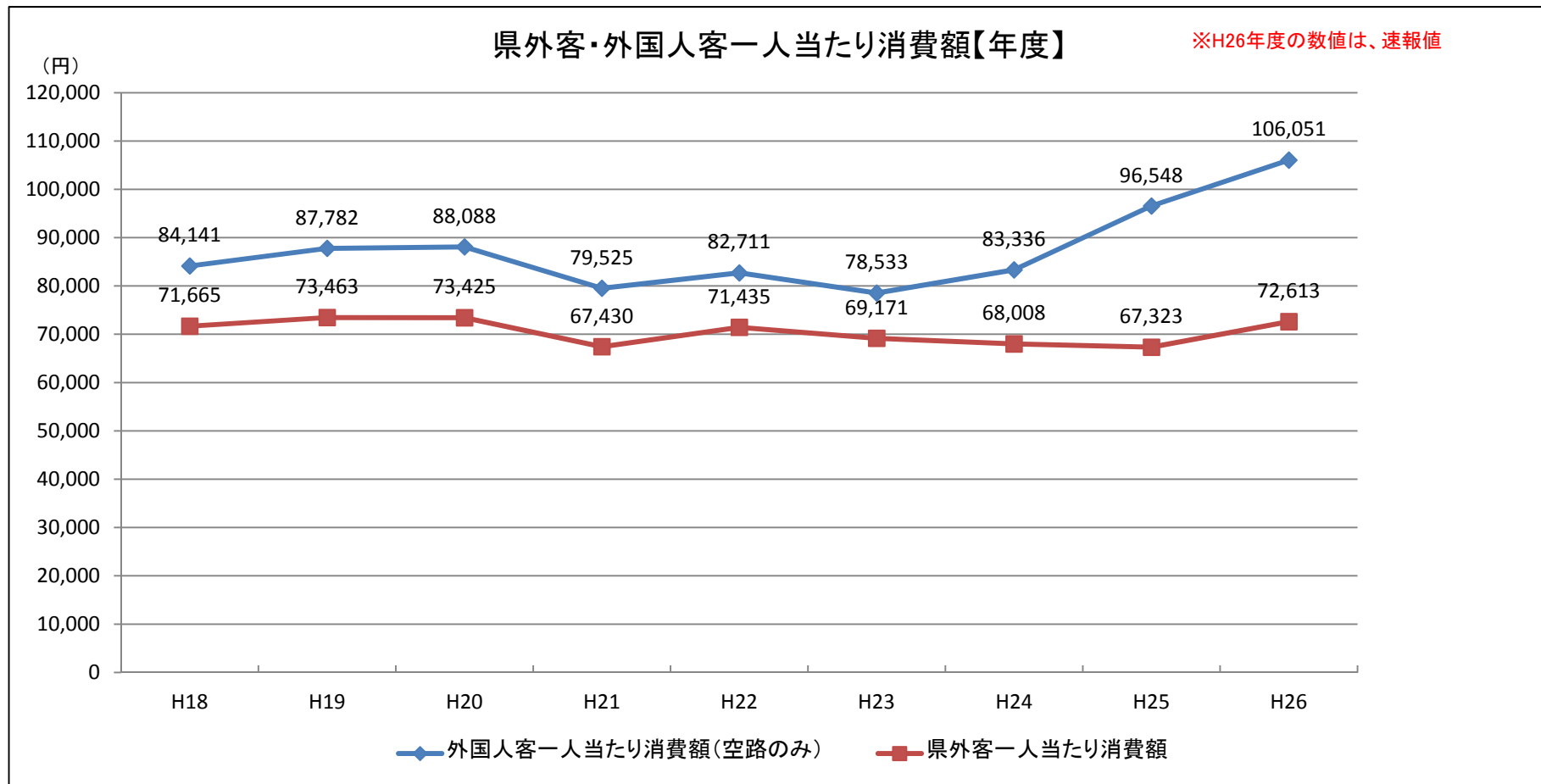


出所：沖縄県「観光要覧」、「平成26年度の観光収入について」

(2)平成26年度 沖縄観光の動向⑤

○一人当たり消費額の推移（県外客・外国客比較）

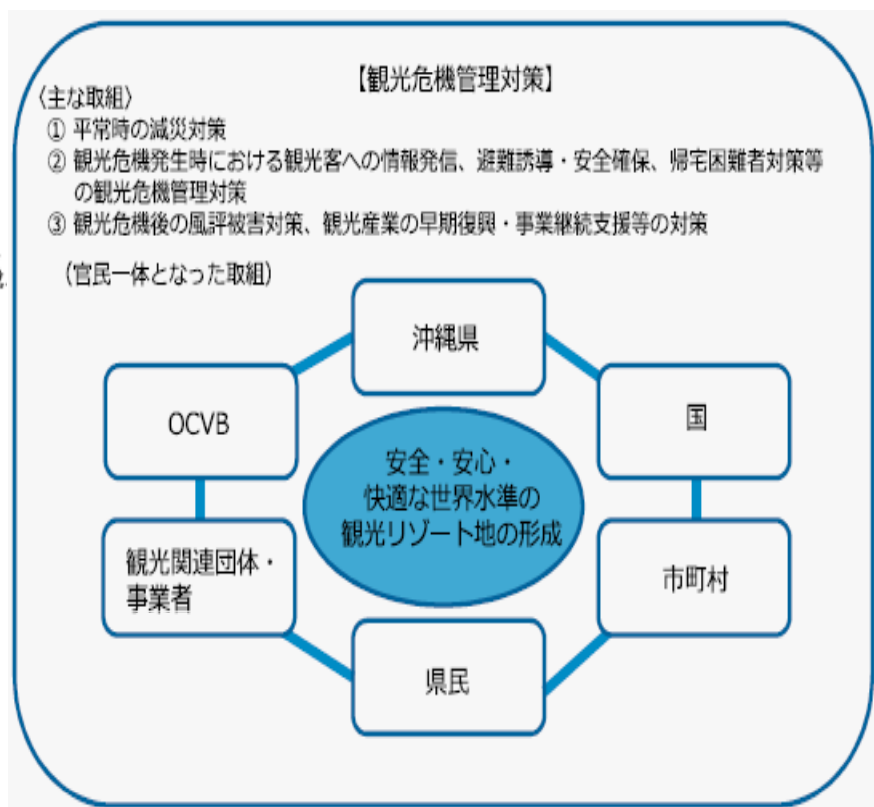
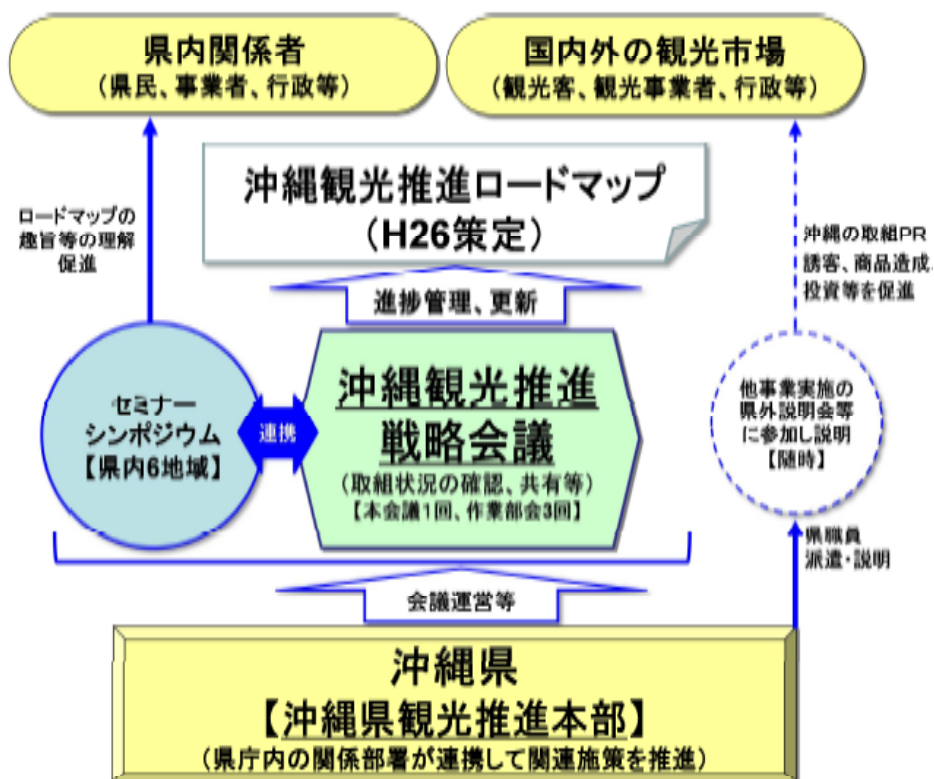
- ・平成26年度の県外観光客の一人当たりの消費額は、前年度比7.9%増の72,613円となり、4年ぶりに7万円台を回復した。
- ・平成26年度の外国人客一人当たりの消費額(空路)は、106,051円で、県外客一人当たりの消費額72,613円と比較すると、3万円余り高く、外国人観光客の経済効果の大きさが見てとれる。



出所：沖縄県「観光統計実態調査」、「平成26年度観光統計実態調査【概要版・速報値】」、
「平成26年度外国人観光客(空路)実態調査概要報告(速報値)」に基づき沖縄総合事務局作成

(2)平成26年度 沖縄観光の動向⑥

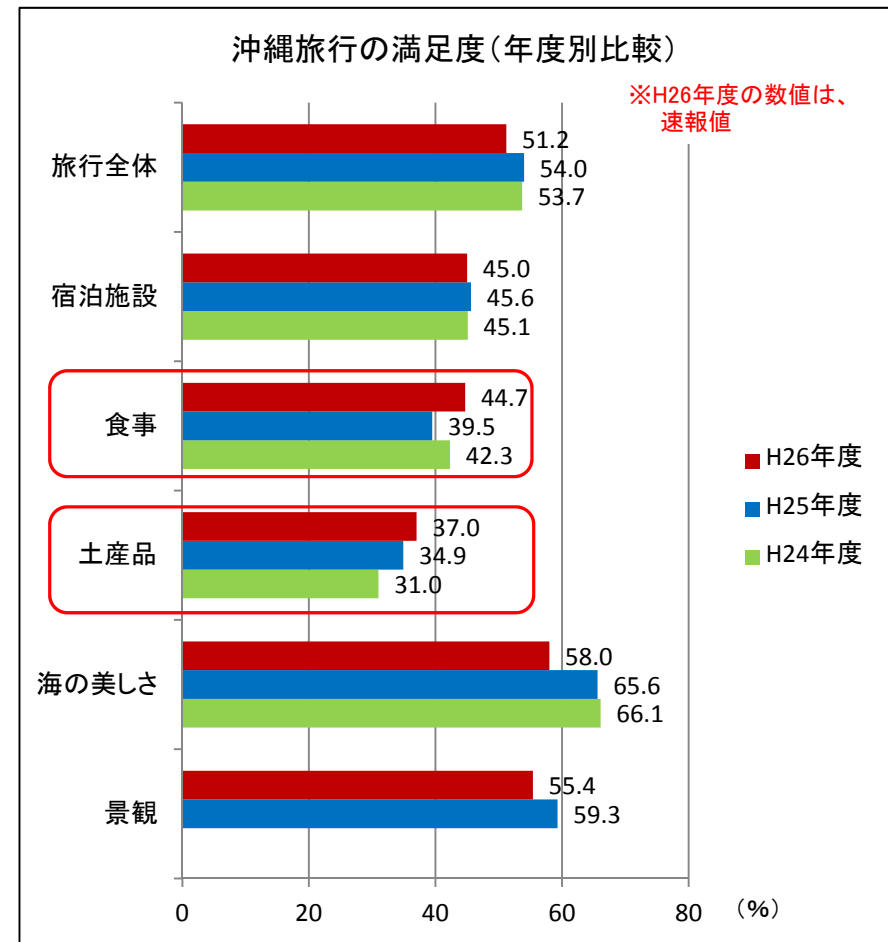
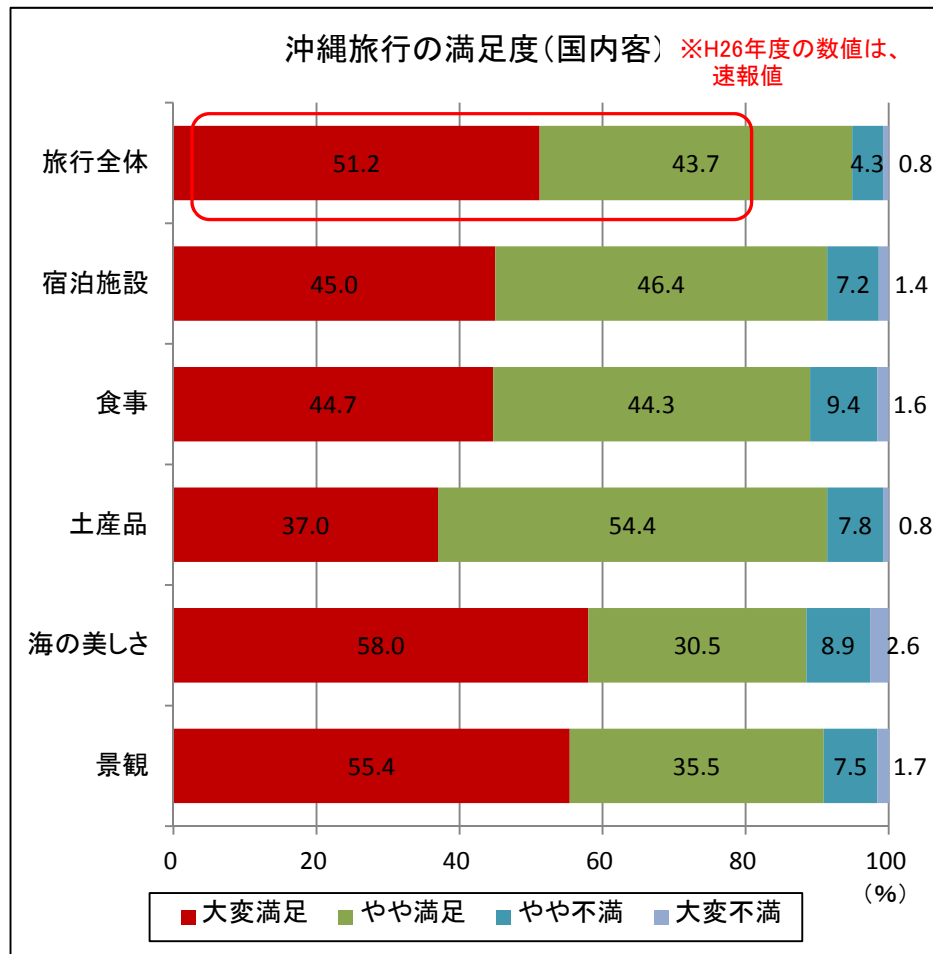
- 沖縄県において、平成33年度の観光収入1兆円、入域観光客数1,000万人等の目標の達成を目指し、官民一体となって中長期的、段階的に誘客及び受入体制整備等の観光振興施策を推進することを目的に「沖縄観光推進ロードマップ」を策定。（平成27年3月）
- 沖縄県では、観光産業に負の影響を与える台風、地震、津波、航空機・船舶事故、感染症等の観光危機に関し、観光危機管理の基本的な対応等を定め、観光客の安全・安心が守られる観光地の形成を図ることを目的に「沖縄県観光危機管理基本計画」を策定。（平成27年3月）



(3)平成26年度 国内観光客の動向

○平成26年度の国内観光客の満足度について

- ・「旅行全体」の満足度については、「大変満足」、「やや満足」を合わせると94%を超える。
- ・「海の美しさ」で「大変満足」の比率が最も高く、次に「景観」が続いている。
- ・年度別で比較すると「食事」、「土産品」の満足度は増加傾向にある。



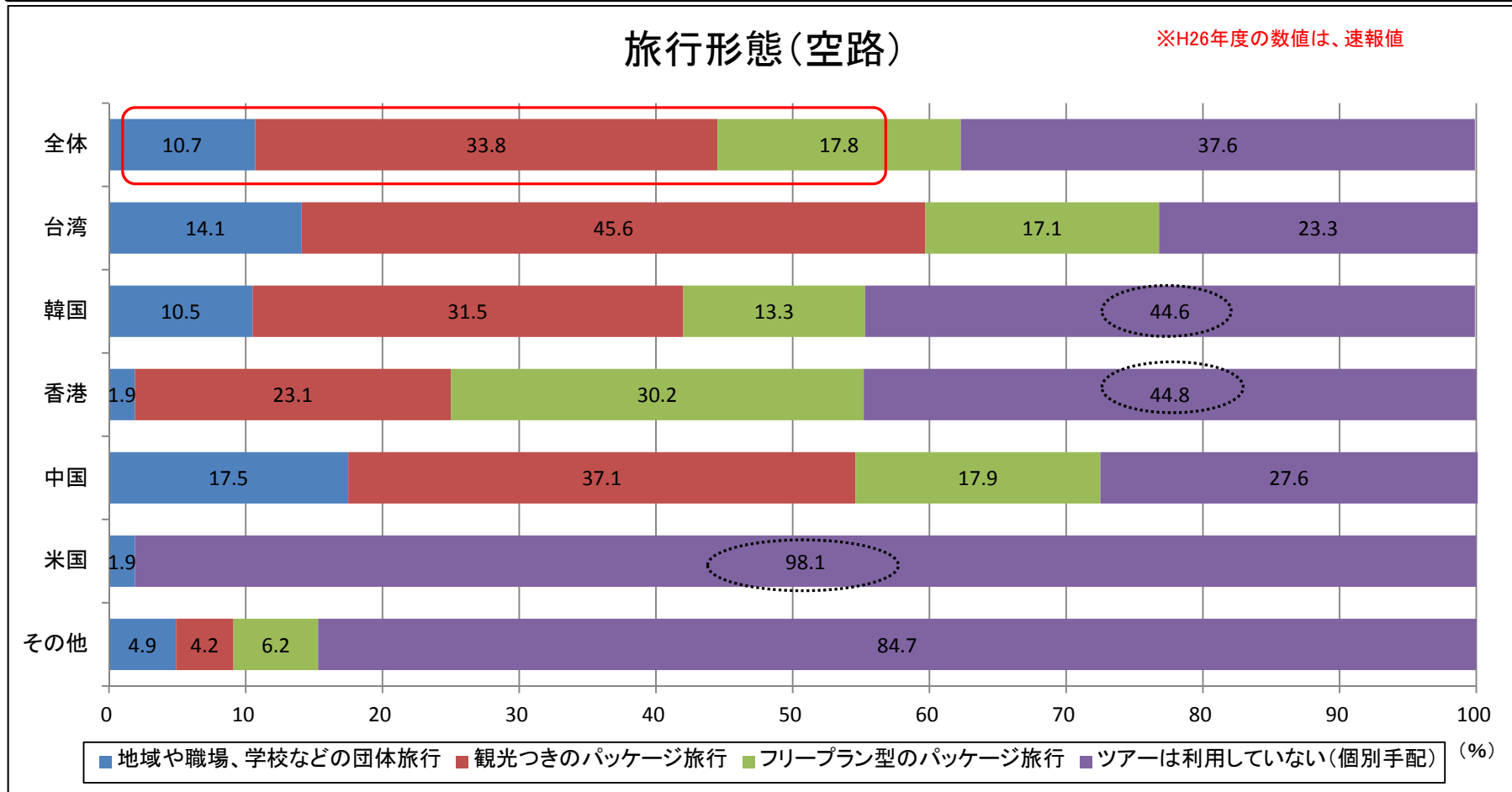
出所:沖縄県「平成26年度観光統計実態調査【概要版・速報値】」に基づき沖縄総合事務局作成

※「景観」はH25年度新設の項目

(4)平成26年度 外国人観光客の動向

○平成26年度の外国人観光客の旅行形態について

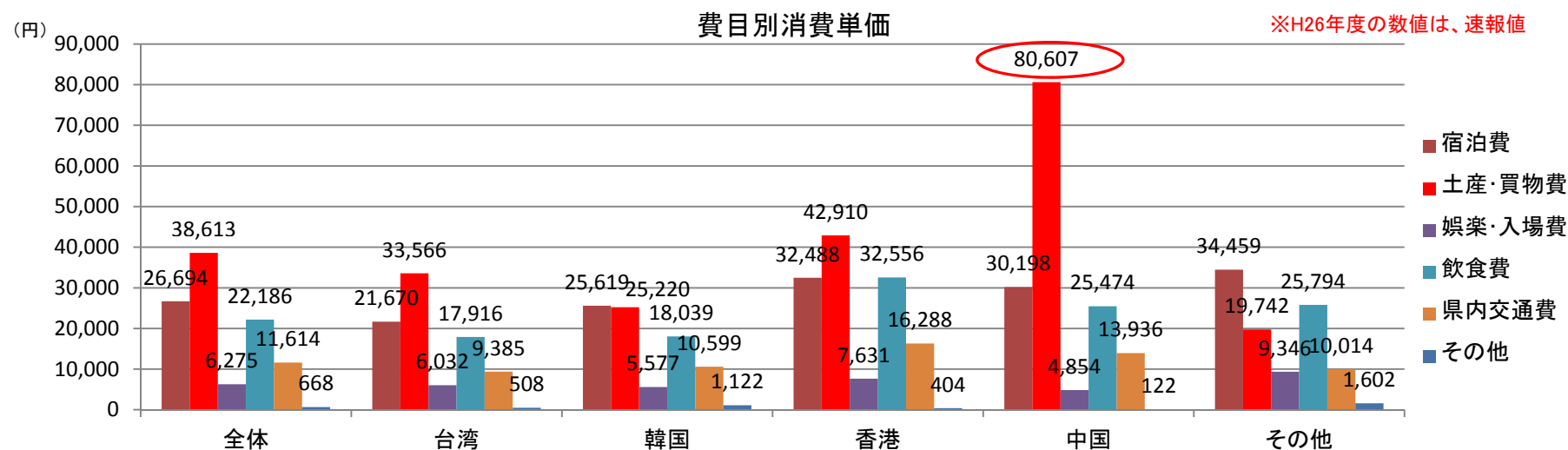
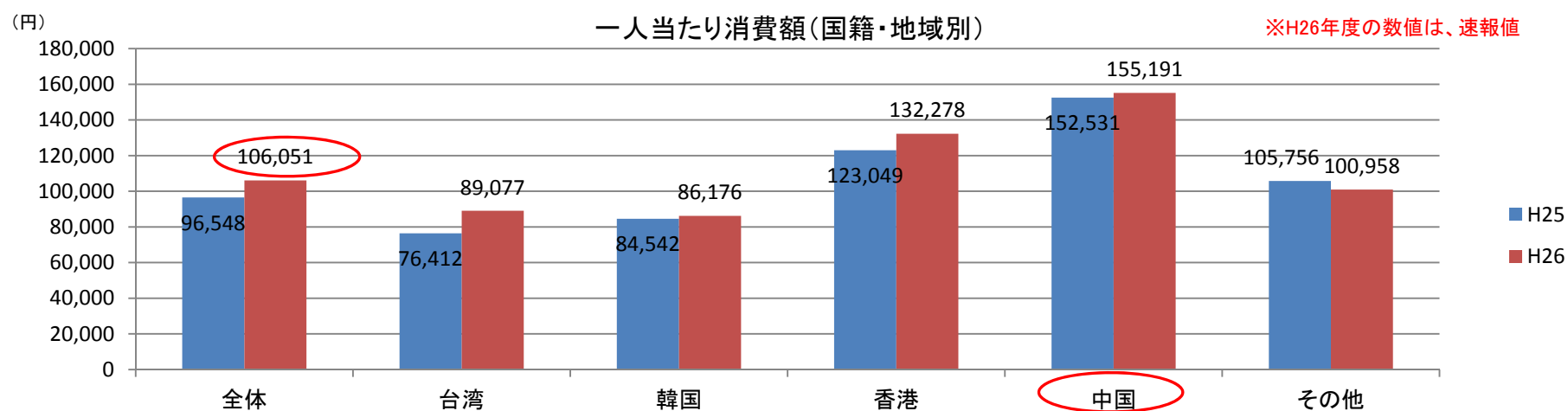
- ・ツアーの利用割合は、全体で6割程度(対前年度比-10.4%)
- ・アジアの中では、香港・韓国が個別手配の割合が高く、米国は98.1%とほとんどが個別手配となっている。



出所: 沖縄県「平成26年度外国人観光客(空路)実態調査概要報告(速報値)」に基づき沖縄総合事務局作成

○平成26年度の外国人観光客一人当たり消費額(空路)の国籍・地域別の内訳

- ・全体の消費額は前年度比9.8%増の106,051円で10万円台に達した。
- ・中国人観光客の消費単価が前年度比1.7%増の155,191円と全体を押し上げた。
- ・費目別では、中国人観光客の「土産品・買物費」の比率が突出している。



出所：沖縄県「平成26年度外国人観光客(空路)実態調査概要報告(速報値)」に基づき沖縄総合事務局作成

(5) 沖縄観光の課題等

① 滞在日数の長期化

② 一人当たりの平均消費額の向上

③ 急増する外国人観光客の満足度の向上

・「交通機関」、「案内標識」、「外国語対応能力」への満足度の向上

④ 観光スタイルの変化、目的の多様化等への対応

・観光客の個人旅行へのシフト

⑤ 交通事情

第5次沖縄県観光振興基本計画の数値目標フレーム等

数値目標のフレーム

(1) 観光収入：1兆円

(2) 観光客一人当たり消費額：10万円

(3) 平均滞在日数：5日

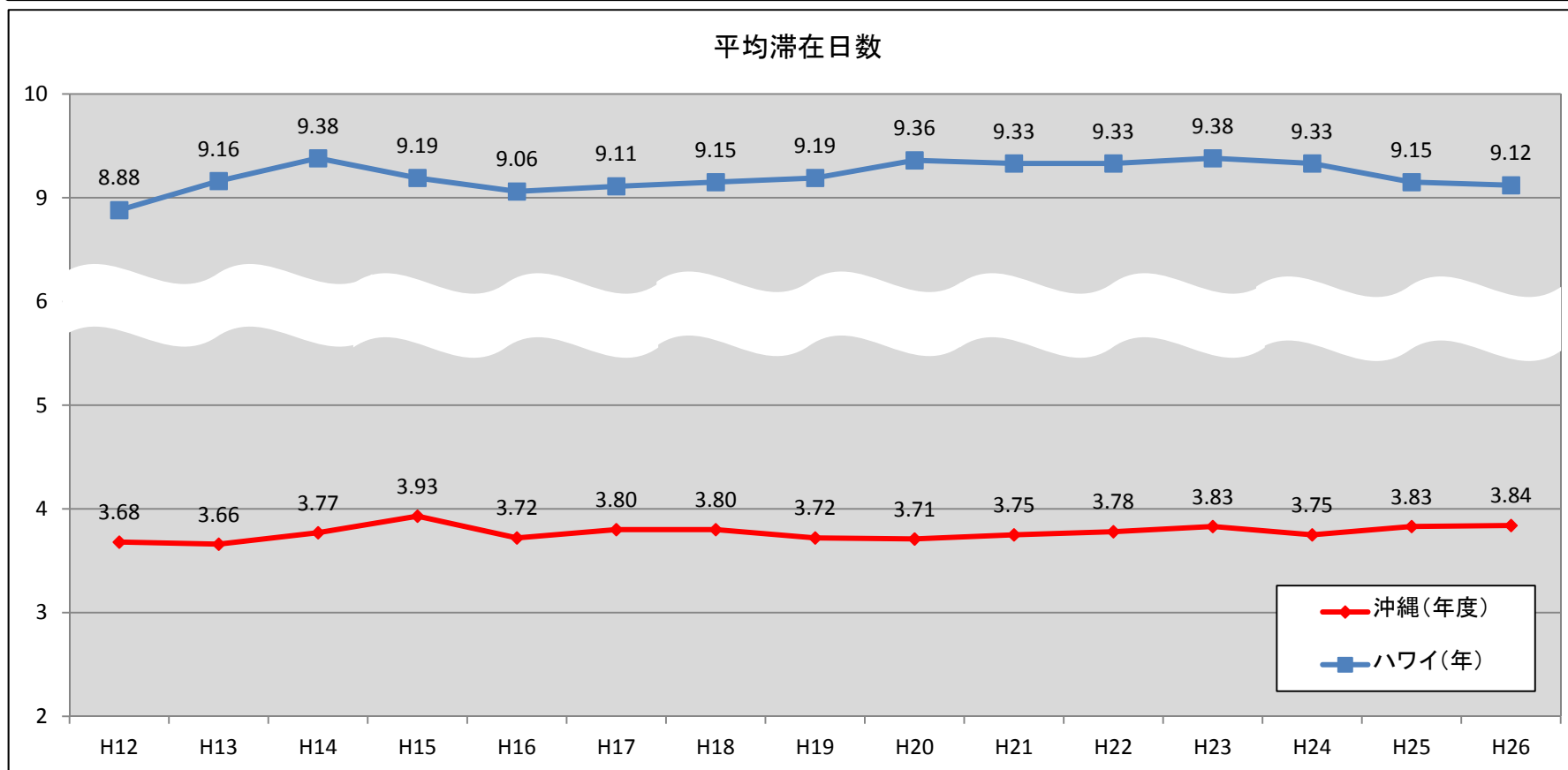
(4) 人泊数：4,027万人泊（うち国内客3,152万人泊、外国空路客875万人泊）

(5) 入域観光客数：1,000万人（うち国内客800万人、外国客200万人）

観光振興の最大目標である「観光収入」は、「一人当たり消費額」×「観光客数」で算出されることから、一人当消費額と観光客数の両方を増加させることが政策課題

①滞在日数

平均滞在日数は、平成16年度以降は3.8日前後で推移している。



観光先進地であるハワイと比較した場合、半分以下(日本人に限っても約6割)の水準にとどまっている。

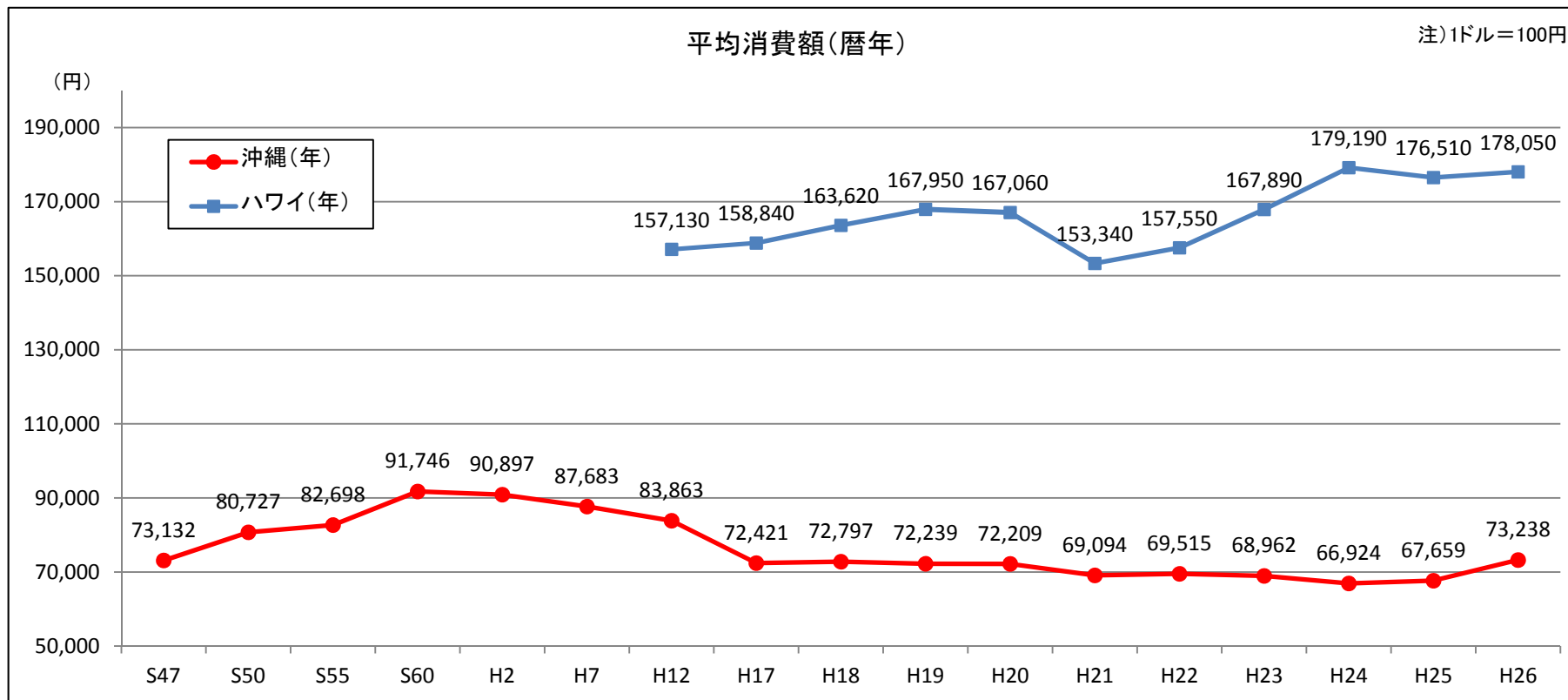
沖 縄 3.84日(H26年度、国内客のみ)

ハワイ 9.12日(H26年、うち日本人5.80日)

(注) 沖縄県「観光要覧」、「平成26年度の観光収入について」、ハワイ州産業経済開発観光局資料に基づき、沖縄総合事務局作成

②一人当たりの平均消費額

- 一人当たりの平均消費額は、昭和60年の91,746円をピークに長期の下落傾向が続いていたが、平成26年は6年ぶりに7万円台に達した。



ハワイと比較した場合、およそ半分程度の水準にとどまっている。(1ドル=100円換算)

沖縄 73,238円(H26年)

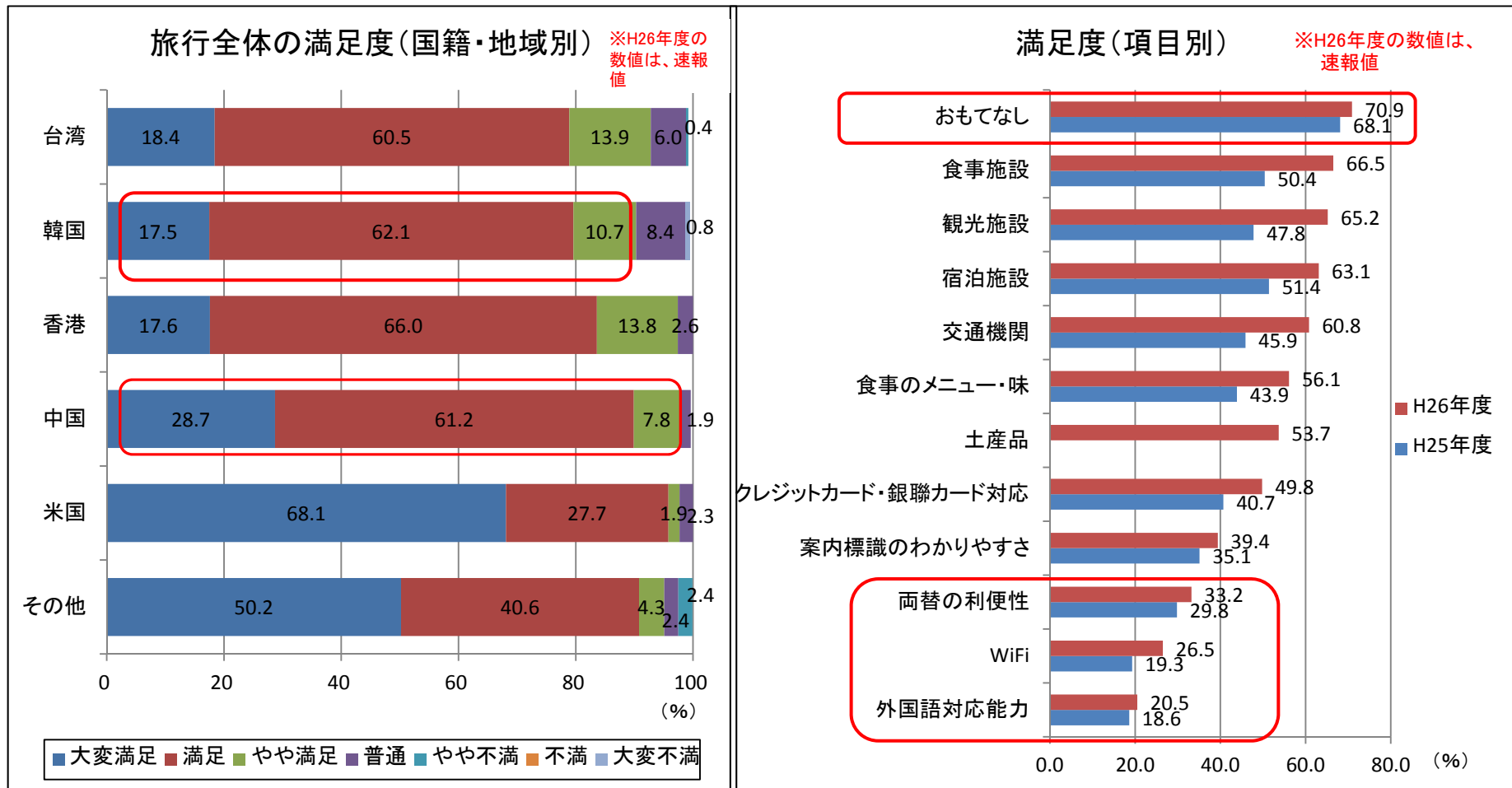
ハワイ 178,050円(1,780.5ドル)(H26年)

うち日本人 159,800円

(注) 沖縄県「観光要覧」、「平成26年の観光収入について」、ハワイ州産業経済開発観光局資料に基づき、沖縄総合事務局作成。

③外国人観光客(空路)の満足度について(平成26年度)

- ・中国が97.7%と満足度に対する割合が比較的に高いが、韓国が90.3%とやや低い。
- ・項目別にみると、「おもてなし」に対する満足度が70.9%と高いが、「外国語対応能力」、「WiFi」、「両替の利便性」の満足度がかなり低い割合となっている。



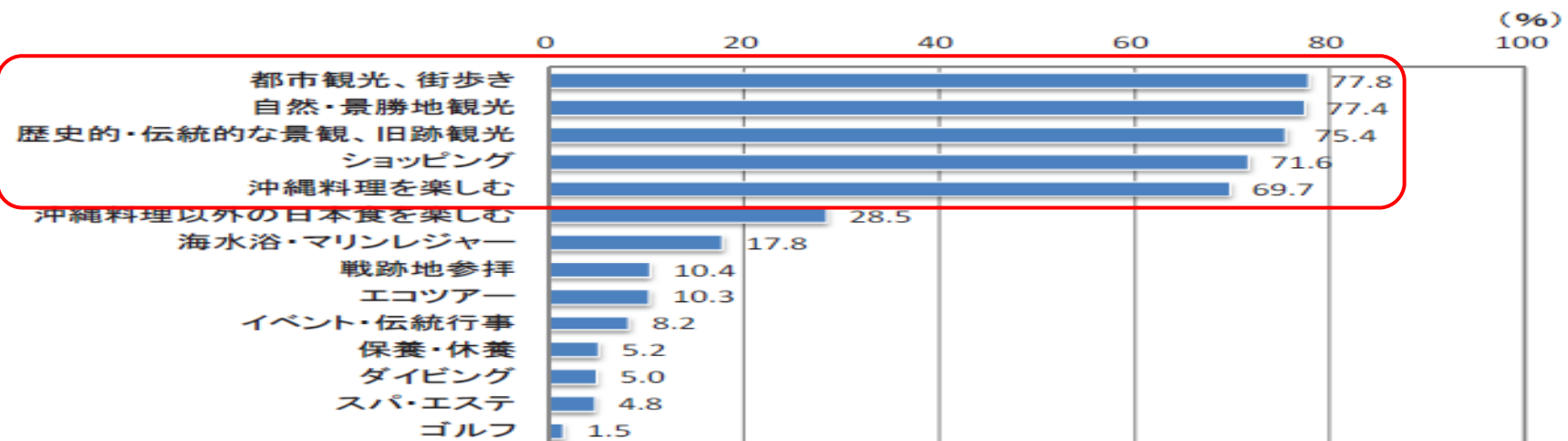
出所: 沖縄県「平成26年度外国人観光客(空路)実態調査概要報告(速報値)」
に基づき沖縄総合事務局作成

※「土産品」はH26年度新設の項目

○「外国人観光客の沖縄での活動」について(平成25年度)

- ・「都市観光、待歩き」が77.8%で一番多く、「自然・景勝地観光」、「歴史的・伝統的な景観、旧跡観光」、「ショッピング」、「沖縄料理を楽しむ」と続いている。
- ・国籍・地域別にみると、香港や中国が「ショッピング」で8割を超えている。

図表 1-14 活動（複数回答）

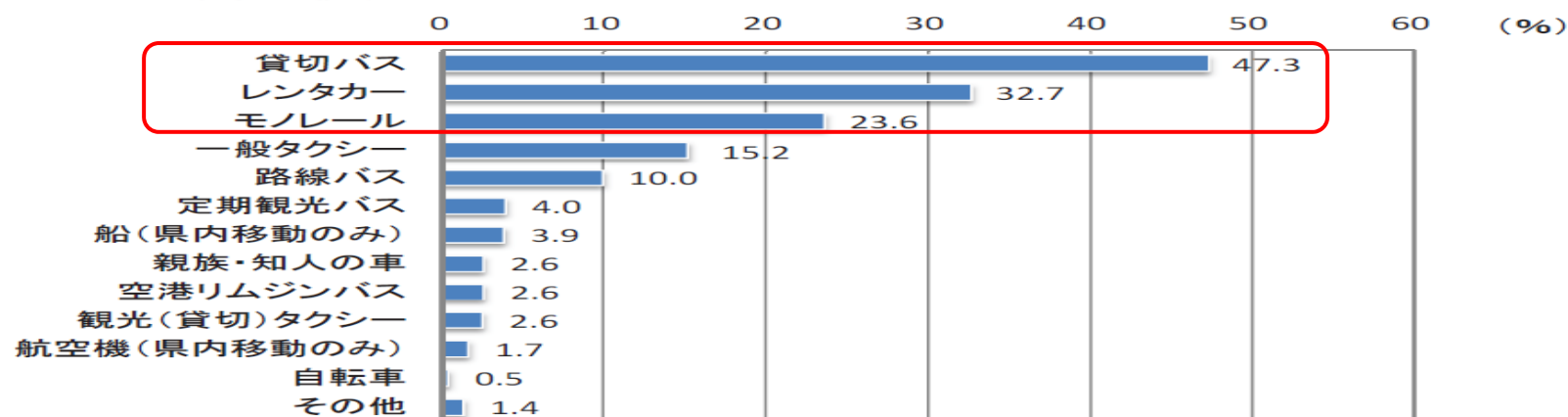


	(%)						
	全体	台湾	韓国	香港	中国	米国	その他
都市観光、街歩き	77.8	85.4	63.8	83.6	81.2	64.6	60.5
自然・景勝地観光	77.4	84.2	61.1	86.0	85.9	67.6	57.4
歴史的・伝統的な景観、旧跡観光	75.4	83.9	62.6	73.1	77.0	76.6	73.3
ショッピング	71.6	79.3	48.9	82.2	85.6	62.7	55.1
沖縄料理を楽しむ	69.7	78.2	44.5	79.7	82.2	64.6	59.8
沖縄料理以外の日本食を楽しむ	28.5	28.9	19.1	30.7	35.7	37.8	39.6
海水浴・マリンレジャー	17.8	13.1	14.6	23.5	21.9	38.9	28.9
戦跡地参拝	10.4	18.4	1.8	5.7	5.4	26.6	8.7
エコツアー	10.3	15.9	1.3	12.1	8.2	3.2	6.3
イベント・伝統行事	8.2	13.2	4.8	4.9	4.3	9.4	5.0
保養・休養	5.2	1.5	12.9	2.0	3.6	16.2	10.1
ダイビング	5.0	3.1	1.3	8.8	8.7	9.9	10.8
スパ・エステ	4.8	1.4	10.7	5.4	2.5	7.8	5.4
ゴルフ	1.5	0.7	3.5	0.1	2.3	9.3	1.8

○「外国人観光客の交通機関の利用」について(平成25年度)

- ・上位から「貸切バス」が47.3%と最も多く、次いで「レンタカー」、「モノレール」と続いている。
- ・国籍・地域別では、観光付きのパッケージ旅行や団体旅行等の利用率の高い台湾や中国が「貸切バス」を多く利用し、フリープラン型のパッケージ旅行の利用率が高い香港や個別手配利用率の高い韓国が「レンタカー」を多く利用している。

図表 1-13 交通機関(複数回答)

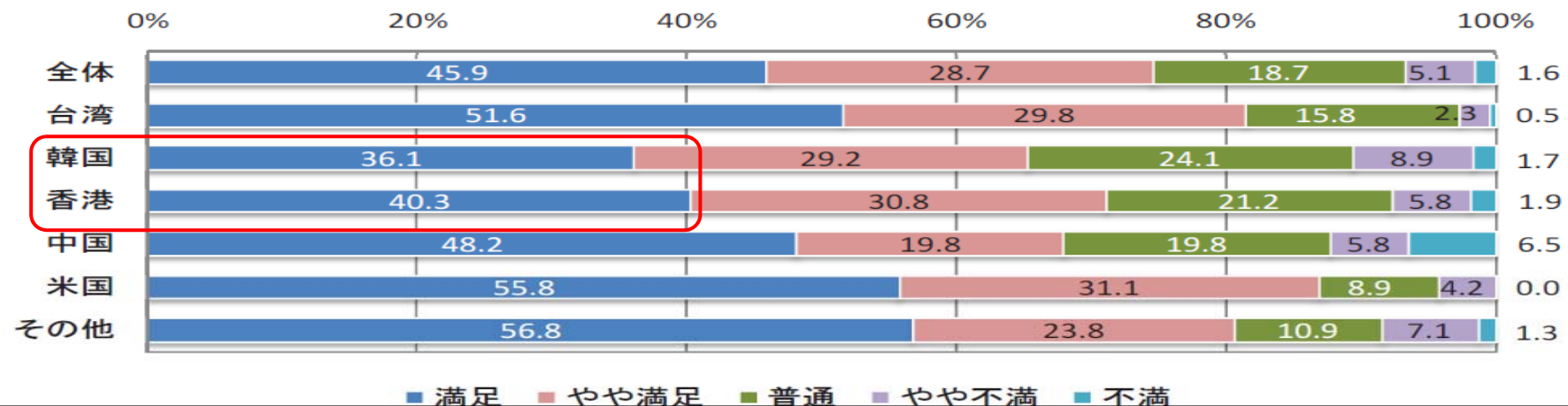


	(%)						
	全体	台湾	韓国	香港	中国	米国	その他
貸切バス	47.3	59.0	45.5	38.7	50.4	5.8	16.9
レンタカー	32.7	27.7	40.3	47.3	6.3	18.8	25.7
モノレール	23.6	22.2	17.1	28.1	24.5	22.1	38.5
一般タクシー	15.2	10.1	11.1	13.1	40.4	25.0	33.4
路線バス	10.0	7.5	6.2	13.0	22.8	6.0	13.5
定期観光バス	4.0	2.3	3.8	4.8	9.7	0.0	6.3
船(県内移動のみ)	3.9	1.3	4.2	4.0	3.8	6.6	17.0
親族・知人の車	2.6	1.7	0.8	0.7	4.0	35.2	11.3
空港リムジンバス	2.6	1.0	1.8	2.3	8.4	2.8	9.2
観光(貸切)タクシー	2.6	1.1	1.3	1.7	7.8	13.3	10.0
航空機(県内移動のみ)	1.7	0.1	1.5	2.1	2.1	3.0	9.4
自転車	0.5	0.2	0.0	0.0	0.5	6.2	3.4
その他	1.4	0.7	0.5	1.7	2.7	9.4	4.1

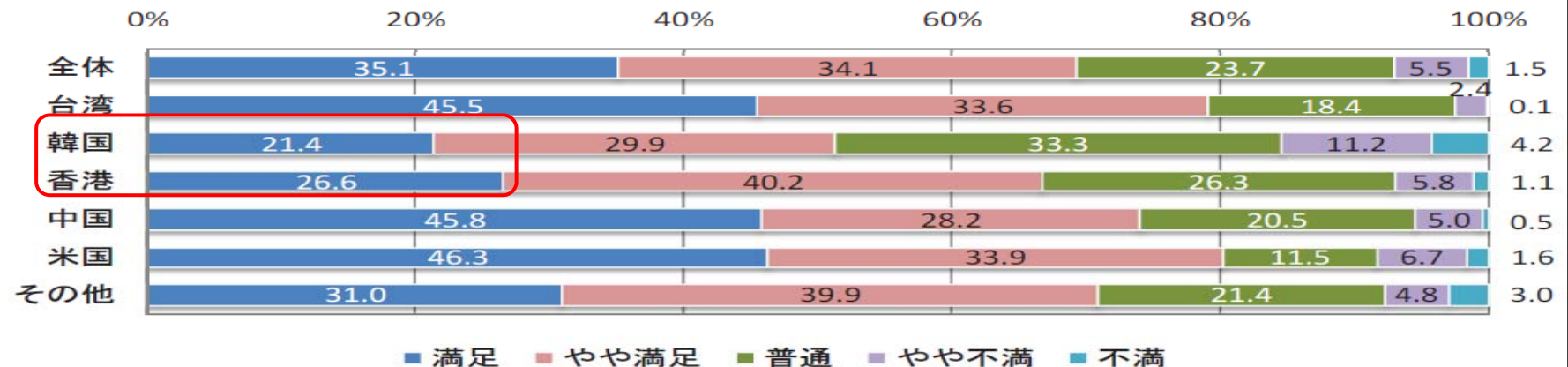
○外国人観光客の「交通機関の満足度」・「案内標識のわかりやすさの満足度」について
(平成25年度)

- ・レンタカー利用率の高い韓国と香港の満足度が低く、中国の満足度もやや低い。
- ・案内標識のわかりやすさについても同様に韓国と香港で満足度が低い。

図表 1-27 交通機関の満足度 (国籍・地域別)

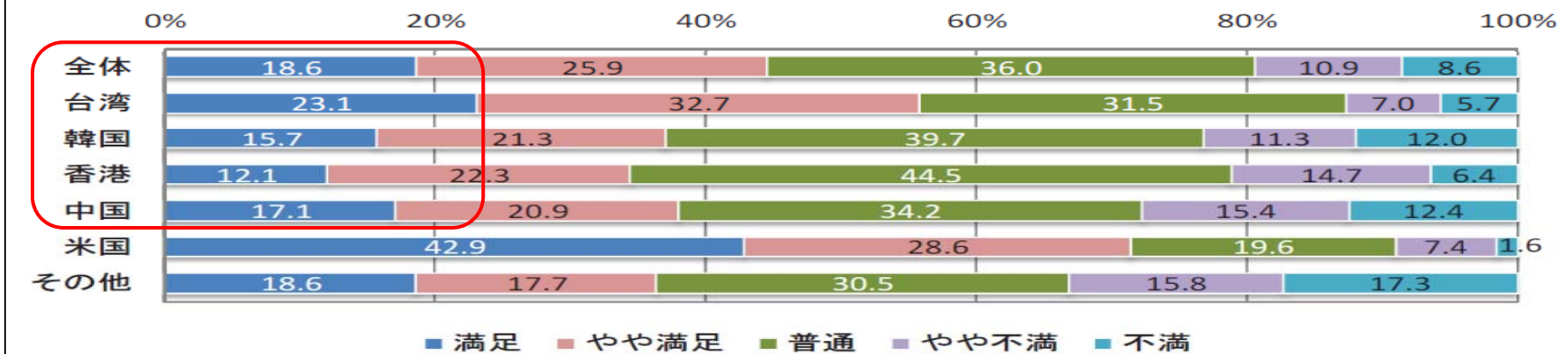


図表 1-30 案内標識のわかりやすさの満足度 (国籍・地域別)

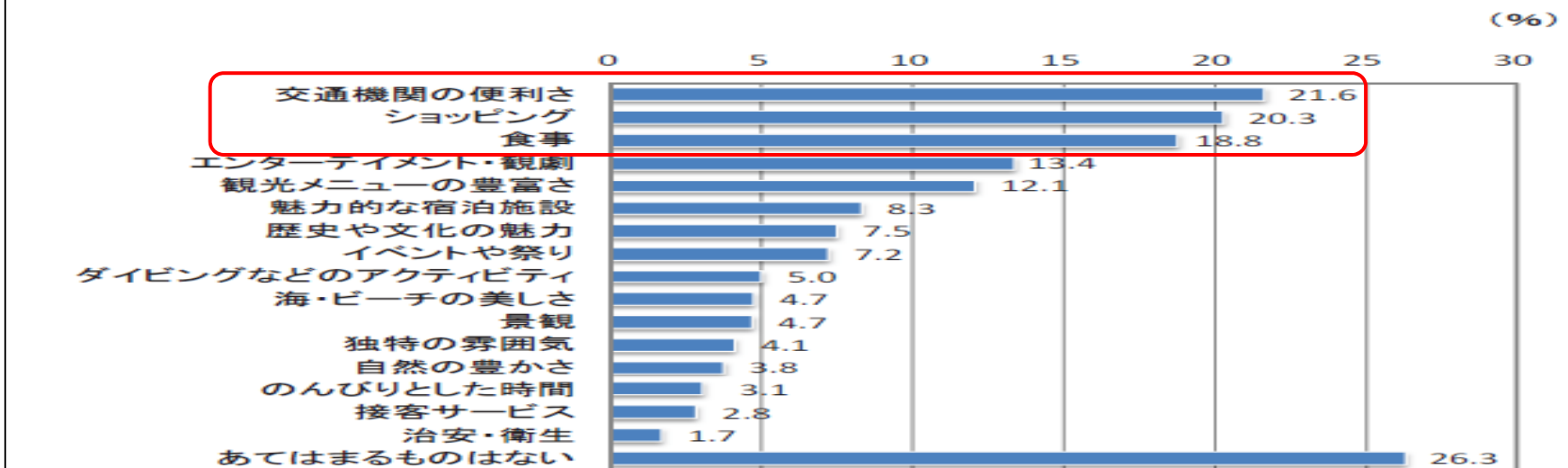


- 外国人観光客の「外国語対応能力の満足度」については、全体的に低く、米国以外のすべての国籍・地域では2割程度にとどまっている。（平成25年度）
- 外国人観光客にとっての「沖縄が劣っていると感じるもの」について、「交通機関の便利さ」、「ショッピング」、「食事」が多い。沖縄旅行での活動において、「ショッピング」の人気が高い一方、「両替の利便性」、「外国語対応」等の満足度が低いことから、ショッピングの利便性の改善が求められる。（平成25年度）

図表 1-29 外国語対応能力の満足度（国籍・地域別）



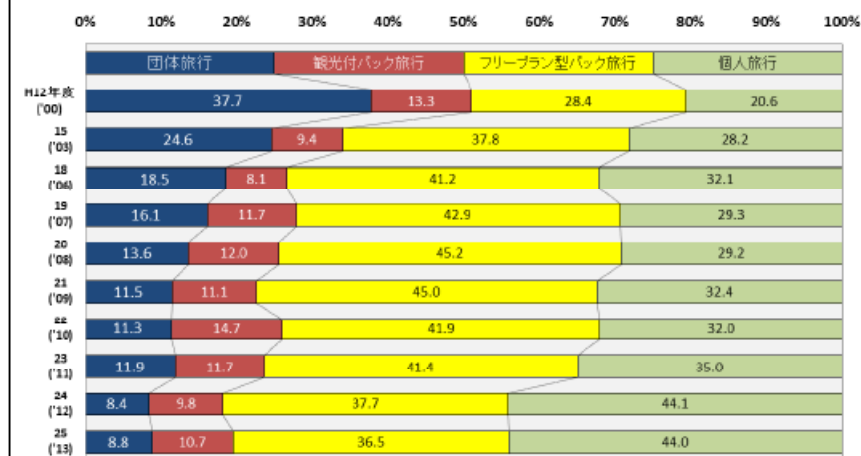
図表 1-38 沖縄が劣っていると感じるもの（3つまで）



④観光スタイルの変化、目的の多様化等

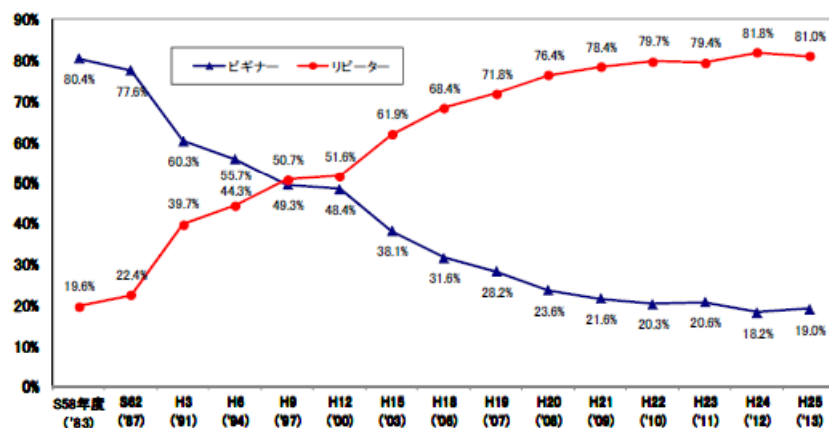
- ・年々、団体旅行が減少し、個人旅行が増加している。旅行内容の消費者ニーズは多様化している。

旅行形態の推移



※出所：沖縄県「観光統計実態調査」(H12年度、H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値)

初回来訪率とリピーター率の推移



※出所：沖縄県「観光統計実態調査」
※H12年度、H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値

旅行内容別推移

活動内容(複数回答)	H12年度	H15年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
観光地めぐり	73.7	72.1	68.4	68.2	68.0	61.3	65.9	62.0	60.1	59.7
観光地参拝	19.8	16.3	12.2	12.7	10.2	9.9	10.2	10.3	9.5	10.1
海水浴等	28.5	34.1	27.4	24.5	25.1	25.2	32.1	27.9	24.5	23.2
マリンスポーツ	17.1									
ダイビング	9.3	8.7	7.9	6.5	7.6	8.7	11.7	8.5	9.5	6.6
保養・休業	22.2	17.6	16.8	19.1	23.2	26.1	26.7	23.5	25.3	24.1
スパ・エステ	-	-	3.8	4.4	4.0	3.4	4.3	4.4	3.6	3.6
ゴルフ	4.8	4.1	4.4	4.7	4.0	3.8	3.8	4.3	3.9	4.4
釣り	2.9	1.7	1.9	1.5	1.3	1.2	1.8	1.6	1.5	1.6
キャンプ	0.8	0.7	0.6	0.6	0.7	-	0.2	0.4	-	-
エコツアー	-	1.4	1.4	2.0	1.6	1.8	1.9	1.5	2.3	1.1
ショッピング	33.0	44.4	33.4	37.7	26.7	26.7	34.1	30.0	23.9	29.6
沖縄料理を楽しむ	-	-	38.8	39.9	40.3	38.1	40.8	42.6	39.1	41.2
新婚旅行	-	1.3	1.5	1.2	1.4	1.6	2.2	1.6	1.3	1.8
ウェディング	-	1.3	2.1	1.4	2.3	2.4	2.0	2.2	2.0	2.6
食・酒・研・修	9.8	6.6	6.4	6.2	9.1	7.2	6.2	6.9	6.8	7.2
伝統工芸・芸能体験	-	-	-	-	-	6.1	-	-	6.2	7.1
イベント・伝統行事	4.0	4.0	4.6	4.8	3.1	3.3	4.3	4.9	4.6	3.7
仕事	8.0	11.0	11.6	9.4	10.7	11.1	8.9	11.1	10.1	14.0
スポーツ大会	1.8	1.5	1.7	0.7	1.2	1.5	3.1	1.1	0.8	1.1
帰省・親戚訪問	11.0	6.3	6.6	4.4	4.8	4.6	4.1	4.8	5.5	4.9
プロ野球キャンプ見学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8
その他	3.9	4.9	3.6	6.4	7.4	5.7	6.8	7.0	7.5	4.5

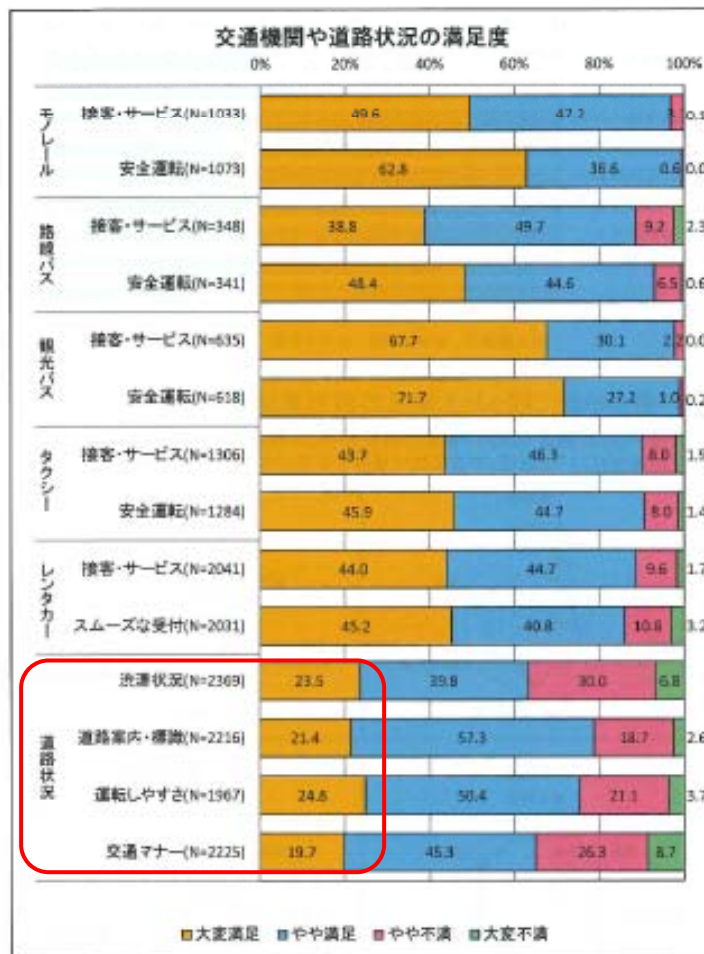
※出所：沖縄県「観光統計実態調査」(H12年度、H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値)

⑤ 沖縄観光で不満に感じたこと

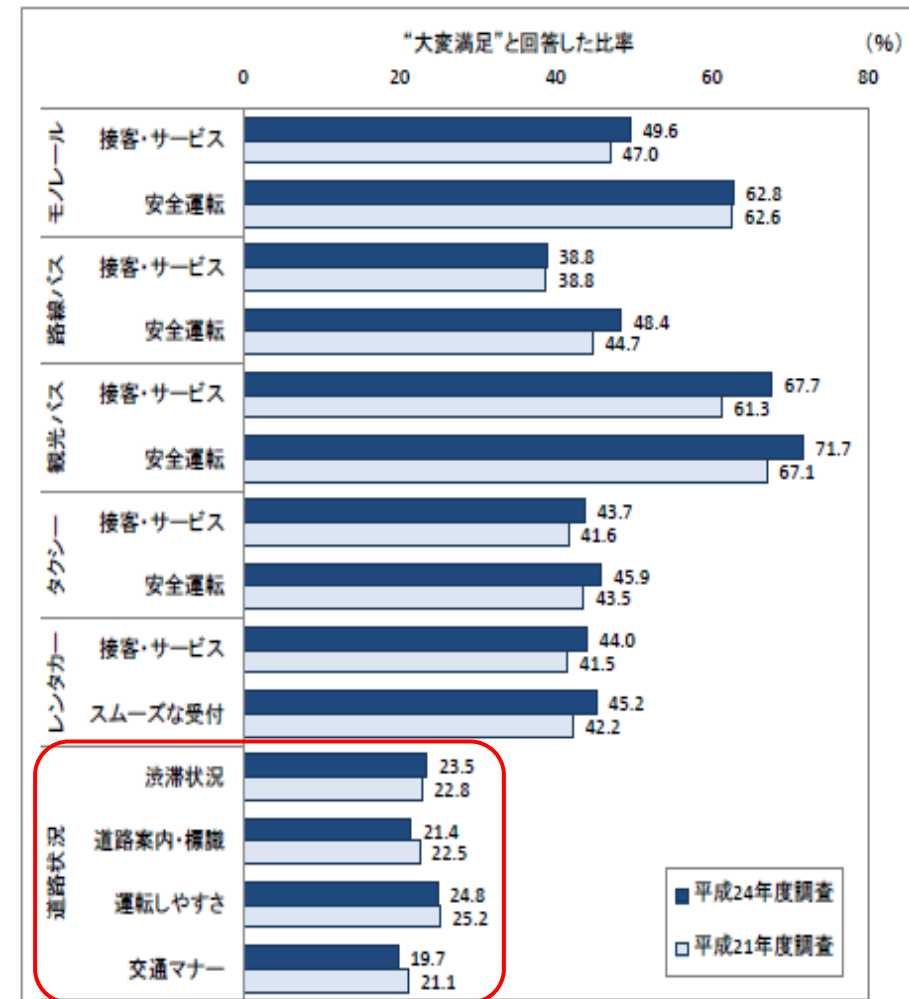
- ・道路状況については、全体的に満足度が低く、満足度の比率は2割程度にとどまっている。

◆ 交通機関や道路状況の満足度

- ▶ 「道路状況」については全体的に不満を感じる比率が多い。特に『渋滞状況』や『交通マナー』では“やや不満”“大変不満”が3割を超える。
- ▶ 「観光バス」は『接客・サービス』『安全運転』ともに他と比べ“大変満足”の比率が多い。

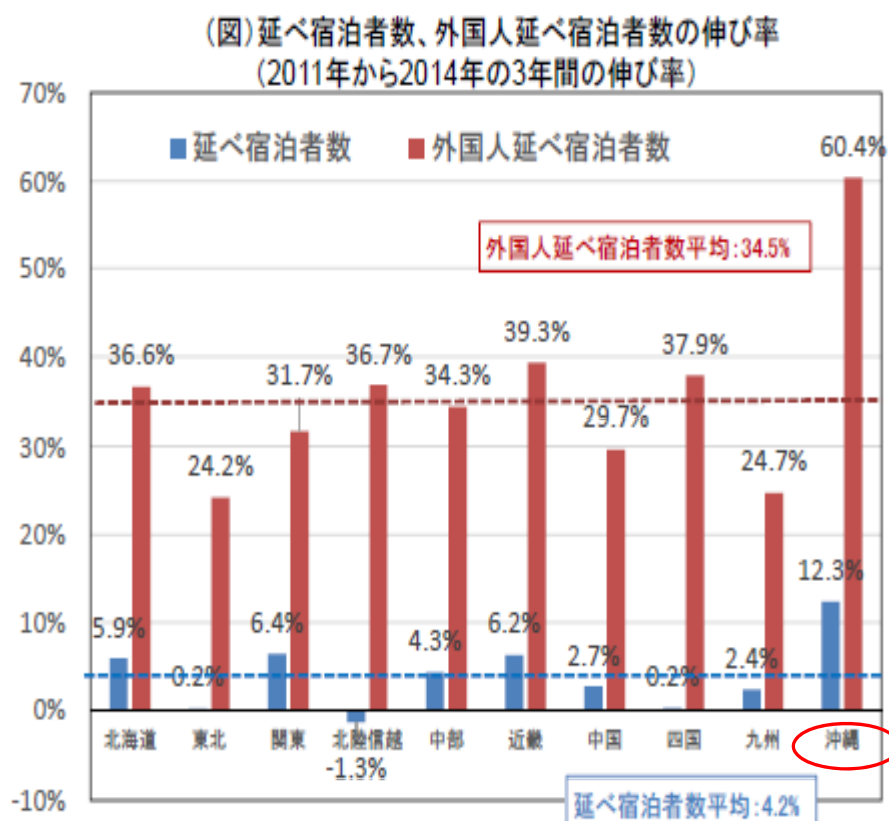


図表 3-6 2 交通機関や道路状況の満足度（平成21年度調査との比較）

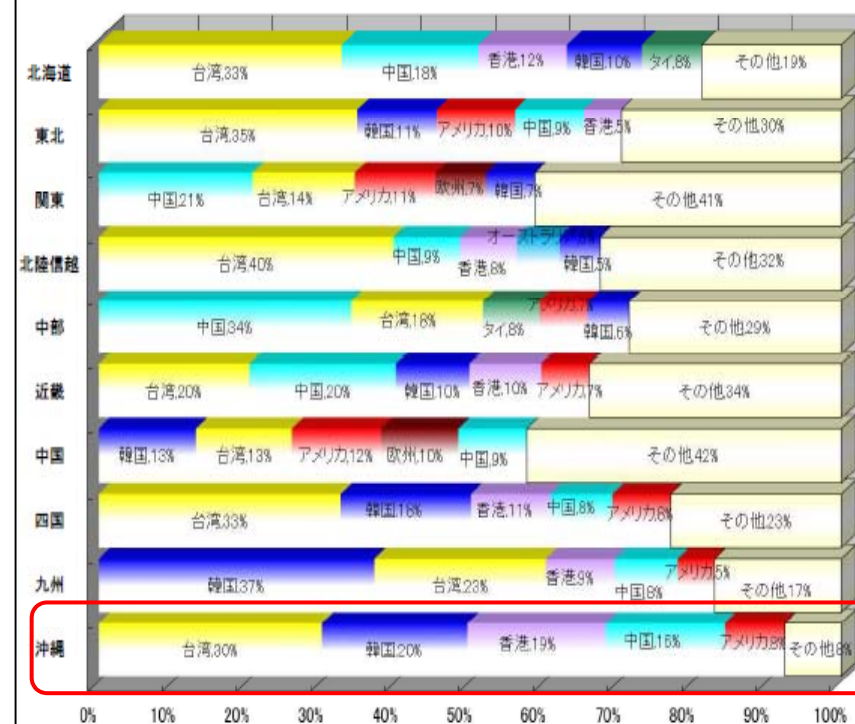


(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向①

- 2011年(平成23年)～2014年(平成26年)における地方ブロック別延べ宿泊者数は、沖縄、関東、近畿、北海道、中部、中国、九州、東北、四国において増加した。
- 2011年(平成23年)～2014年(平成26年)の地方ブロック別外国人延べ宿泊者数は、すべての地方で増加した。特に、沖縄は50%を超える高い増加率となった。
- 地方ブロック別外国人延べ宿泊者については、北海道、東北、北陸信越、近畿、四国、沖縄は台湾からの宿泊者が、中国、九州は韓国からの宿泊者が多く、関東、中部は中国からの宿泊者が多い。



(図)地方ブロック別外国人延べ宿泊者の
国・地域別構成比(2014年(平成26年))



(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向②

○消費税免税店の拡大

- ・2015年4月1日時点の全国の「免税店」は18,779店で2014年10月1日より全品目が消費税免税の対象となったことから、1年前から約3倍と大幅に増加した。
- ・沖縄県は347店と昨年10月から約2.5倍と伸びた。

	店舗数		増加数	前年同比率
	2014.10.1	2015.4.1		
札幌国税局	994	1,132	538	190.6%
北海道	594	1,132	538	190.6%
仙台国税局	156	486	330	311.5%
青森	12	61	49	508.3%
岩手	10	49	31	272.2%
宮城	94	267	173	284.0%
秋田	7	23	16	328.6%
山形	8	39	31	487.5%
福島	17	47	30	276.5%
関東信越国税局	509	1,158	649	227.5%
茨城	66	149	83	225.8%
栃木	69	134	65	194.2%
群馬	22	66	44	300.0%
埼玉	211	500	289	237.0%
新潟	53	132	79	249.1%
長野	68	177	69	201.1%
東京国税局	4,172	7,358	3,184	178.3%
千葉	383	801	418	209.1%
東京	3,268	5,469	2,201	167.4%
神奈川	488	994	528	212.4%
山梨	53	92	39	173.6%
金沢国税局	122	279	157	228.7%
富山	73	129	56	176.7%
石川	48	142	94	308.7%
福井	3	8	5	268.7%
名古屋国税局	595	1,382	787	232.3%
岐阜	57	152	95	266.7%
静岡	161	352	191	218.6%
愛知	298	672	374	227.0%
三重	81	206	125	254.3%
大阪国税局	2,084	4,126	2,042	198.0%
滋賀	52	115	63	221.2%
京都	351	772	421	219.9%
大阪	1,259	2,316	1,057	184.0%
兵庫	307	701	394	228.3%
奈良	49	122	73	249.0%
和歌山	68	100	34	161.5%
広島国税局	220	603	383	274.1%
鳥取	23	49	26	213.0%
島根	6	19	13	316.7%
岡山	58	189	113	301.8%
広島	114	310	196	271.9%
山口	21	56	35	266.7%
高松国税局	67	217	150	249.4%
徳島	3	22	19	733.3%
香川	48	88	40	183.3%
愛媛	25	79	54	316.0%
高知	11	28	17	254.5%
福岡国税局	587	1,262	675	215.0%
福岡	507	1,011	504	199.4%
佐賀	37	84	47	227.0%
長崎	43	167	124	388.4%
熊本国税局	97	431	334	444.3%
熊本	24	99	75	412.5%
大分	22	93	71	422.7%
宮崎	15	68	53	453.3%
鹿児島	36	171	135	475.0%
沖縄国税事務所	138	347	209	251.4%
沖縄	130	347	209	251.4%
合計	9,361	18,779	9,418	200.8%

2015年4月1日現在: 国税局所管地域別(国税庁集計)

免税店の推移

	H26.4.1	H26.10.1	H27.4.1
全 国	5777	9361	18779
沖縄県	82	138	347

(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向③

○国際会議開催統計

- ・2014年の日本で開催された国際会議は、337件で対前年5件減となったが、アジア・大洋州/中近東地区で3年連続で1位となり、世界では昨年と同じ7位であった。
- ・沖縄県は16件で昨年10位より順位をあげて日本国内で5位であった。(世界順位:152位)

日本の都市別国際会議開催件数

※開催件数が4件以下の都市は除く

都市名	2014年			2013年		
	順位	件数	世界順位	順位	件数	世界順位
東京	1位	90	22位	1位	79	26位
京都	2位	47	54位	2位	43	55位
札幌	3位	19	125位	7位	13	182位
横浜	4位	18	134位	5位	17	148位
奈良	5位	16	152位	8位	12	193位
沖縄	5位	16	152位	10位	9	242位
福岡	7位	15	164位	8位	12	193位
神戸	7位	15	164位	4位	18	136位
名古屋	9位	11	208位	6位	15	159位
大阪	10位	10	222位	3位	20	117位
つくば	11位	9	240位	11位	8	265位
千葉	12位	6	318位	12位	7	294位
仙台	12位	6	318位	16位	5	371位
広島	14位	5	354位	12位	7	294位
金沢	14位	5	354位	-	4	-

2014年国際会議開催件数(上位10位)

国名	2014年		2013年	
	順位	件数	順位	件数
アメリカ	1位	831	1位	829
ドイツ	2位	659	2位	722
スペイン	3位	578	3位	562
イギリス	4位	543	5位	525
フランス	5位	533	4位	527
イタリア	6位	452	6位	447
日本	7位	337	7位	342
中国(※)	8位	332	8位	340
オランダ	9位	307	10位	302
ブラジル	10位	291	9位	315

(※)香港、マカオを除く

※(H27.5.20)日本政府観光協会(JNTO)プレスリリース資料より